

令和 8（2026）年度東京大学大学院公共政策学教育部専門職学位課程入学者選抜
専門科目に関するエッセイ出題意図

科目	出題意図
行政法	課題とした最高裁判決について、これまでの議論を踏まえつつ、特定の立場を論証できるかを問うことで、行政法に関する理解を確認する。

令和 8（2026）年度東京大学大学院公共政策学教育部専門職学位課程入学者選抜
専門科目に関するエッセイ出題意図

科目	出題意図
国際法	国際法学の観点から公共政策に関する重要な課題を発見し、当該課題について従来の議論状況等も踏まえながら的確かつ論理的な分析を行う能力を有しているかを確認する。

令和 8（2026）年度東京大学大学院公共政策学教育部専門職学位課程入学者選抜
専門科目に関するエッセイ出題意図

科目	出題意図
政治学 (行政学を含む)	政治学・行政学の諸分野について、学士課程修了程度の学力を有しており、 自分で問題設定を行い、思考し表現できる能力を持っているか否かを問う。

令和 8（2026）年度東京大学大学院公共政策学教育部専門職学位課程入学者選抜
専門科目に関するエッセイ出題意図

科目	出題意図
国際政治	<p>近年米中対立の中で、米国が第二次大戦後のグローバリズムの中心から退いて権威主義化しかねない事態が進む一方、中国はますます強権を強めつつ、既存の先進国を中心として形成された開かれた国際秩序を相対化し、台湾情勢もその影響を強く受けかねない状況となっている。また、「東スラブ民族の統合」を称したロシアのウクライナ侵略も、既存の国際秩序の相対化を目指す（＝多極化世界を構築する）目的を共有する露中関係の蜜月の中で推移している。いっぽう長く複雑な歴史的経緯によるパレスチナ問題や、インドとパキスタンの核保有国間対立など、グローバルな安全保障や相互依存に深刻な影響をもたらしている問題が深刻の度合いを増している。そこで本問は、受験者が常日頃からどれほど注意を払ってこの種の問題の報道に触れ、国際関係論の様々な議論の枠組みと照らし合わせて思考しているかを問うものである。近現代史を通じて形成されたナショナリズム意識や他者認識のうえに、過去数十年來のグローバリズムに伴う国力や社会・文化・経済の複雑な変容が重なり、抜き差しならぬ矛盾・対立が生じている状況に対して、これまでの経済的相互依存論や開かれた規範・価値の共有という考え方がどの程度有効なのか、ある国においてアイデンティティの醸成につながり、かつ国際関係の改善にもつながるような所謂ソフトパワーは、果たして危機の時代にどの程度有効なのか、等々、限られた字数の中で認識を凝縮し簡潔に見解を整理する能力の如何を見ることにしたい。</p>

令和 8（2026）年度東京大学大学院公共政策学教育部専門職学位課程入学者選抜
専門科目に関するエッセイ出題意図

科目	出題意図
経済学 (マクロ経済学、 ミクロ経済学)	経済学の素養に基づく、社会経済問題についての認識と理解ならびに考察力と表現力を評価することで、公共政策大学院生としての適格性および可能性を見定めることを意図している。